第3回 Jichi Joy Café の結果について

第3回 Jichi Joy Café が平成29年3月10日(金)12:15分から13時30分まで2号館2 階の医師・研究者キャリア支援センター会議室において「自治医大女性医師・研究者のキャ リアって?」と題して開催されました。

初めに女性医師・研究者の働く環境に関するアンケート(案)の提示ということで精神科の 加藤梨佳先生とコーディネーターの石川由紀子先生から説明がありました。

次に自己紹介では、教員、病院本務医師、シニアレジデント、リサーチレジデント、大学 院生、医学生と総勢 18 名より様々な立場からの紹介がありました。最後に解剖学部門教授 の野田泰子先生及び小宮根センター長より、大学病院における女性医師・研究者のキャリア についてご講演があり、参加者皆様から多くのご意見が出され、活発な情報交換が出来まし

皆様大変お疲れ様でした。今後皆様の貴重なご意見を集約できるように引き続き活動を 続けていきたいと思います。

記

医師・研究者キャリア支援センター による アンケート調査の実施について(案)

計画1:就労継続のための要因調査

説明者:精神科 加藤先生

計画2:女性研究者の出産・育児支援のニーズ調査 説明者:コーディネーター石川

アンケート調査1 (予定)

- · 対象者:全医師 · 研究者
- ・アンケート内容:
- 属性
- ・就労関連要因(就労内容・就労継続年数・就労継 続意思等)
- 生活(家庭・就労)満足度
- ・上記に影響を与える要因内容

アンケート調査2 (予定)

- · 対象者: 女性研究者
- ・アンケート内容:
 - 職種
- 勤務継続年数、育児の経験の有無
- どんな困難があったか
- ・必要なサポートの内容

計画1:就労継続の要因

就労継続や生活満足度・健康状態に影響を与える 要因等を調べ、働きやすい職場作りに役立てる

2017年度に当センターでアンケート調査を実施予定

学内に公表・組織への働きかけの実施 学会/論文発表等の実施

計画 2:女性研究者と出産・育児支援

自治医大女性研究者 出産・育児時の研究継続困難 (2016年第2回Jichi Joy Cafeより)



現状把握 ニーズの調査

本日ご出席の先生方へお願い

アンケート計画1: 財労総結のための要因調査 アンケート計画2 女性研究者の出産・育児支援のニーズ調査

アンケート実施にあたり必要な調査項目を検討中です。

Q1:全出席者の先生方へ伺います 先生方ご自身の就労継続や生活満足度・健康状態に影響を与えてい

先生万ご目身の親为継続で生血病と及う PERKY NO. ることは何でしょうか? (いくつでも) 例:職場の理解、家族の協力、勤務制度の利用など

Q 2:女性研究者の先生方へ伺います 出産・育児時に研究を続けるために必要な支援は何でしょうか? 例:職場の理解、研究補助員の派遣、育児休暇、育児短時間制度など

これまで

自治医科大学医学部解剖学部門 野田泰子

これまでの育児

- 28歳で結婚
- 30歳で出産
- |年間は、夫と別居、実家暮らし
- 大学院入学後、保育園(9時~19時)
- 実家の学区の小学校
- 小4まで、週1回夜のカンファ出席のため実家に預ける

現状

- 一応、東京在住
- 週日単身赴任
- 解剖学実習、発生学、神経解剖学
- 学生生活支援センター副センター長
- 教務委員長

気をつけていること

- できることは自分でする、手を抜かない
- こども>仕事
- 困っている人の世話をやく、人に優しく
- いばらない
- メンツにこだわらない
- 会いに行って直接話す
- 誰のものでもない仕事は自分の仕事

最後にアドバイス?

- 社会とつながっている
- パートナーを選ぶなら、、
- 与えられた場所でベストを尽くす
- 周りはちゃんと見ている

職業

- 小児科医6年
- 基礎系研究者(大学院を含めて)19年 大学院生4年 助手6年(大学院担当) 講師9年 特任准教授半年
- 基礎医学系教授 +9年目

キャリアの転機

- ・臨床医から大学院生へ
- 研究者を辞めたくなった時
- 研究者から教育者へ

振り返っておもうこと

- 柔軟にその場その場で社会とのつながりを探る
- 得られる支援を大切に
- 主婦はバッファー: 突然の事件担当係
- 切り抜けるほどマルチに
- 女性らしさ

女性の特性 (メリット) ?

- 変だと思える
- 人と違っても女性だからと思ってみて もらえる
- 同時進行に慣れている
- 現実路線、現場優先
- 人が喜ぶとうれしい

"キャリアアップ" のために何ができるか?

小宮根真弓 医師・研究者キャリア支援センター

アットホームな雰囲気看護師さんが働き者で働きやすい環境

自己紹介

皮膚科 小宮根真弓

市中病院研修時代

- 部長 常勤医師 ・○○先生 ・○▽先生 ・□○先生 ・小宮根

非常勤医師

- ・ ○□先生 ・ ▽△先生 ・ △□先生
- △O先生

主な仕事

- ・外来・病棟
- ・組織係り
- ・レセプト係り
- ・当直はなかったが、病院の寮が病院のすぐ前だったので、よく呼び出された。

出身大学の医局に戻る

・研究への指向性:大学院制度

カンファが充実:クリニカルカンファ、写真検討会、組織デモ、台帳検討会

・組織係り

・分院での病棟医長、医局長の経験

・本院では医学部学生・医学教育を担当

・自分の研究について考える余裕ができた

市中病院時代の先輩からの教え

- ・患者を診断し治療をしたら、かならずその結果 を確認する。
- ・ありふれた疾患でも患者から学ぶことは多い。

留学

- ・平成5年から平成8年
- New York University (NYU) **Department of Dermatology**

Dr. Irwin M. Freedberg, Chairman, Professor

Dr. Miroslav Blumenberg, Associate Professor

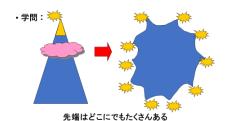
留学中の皮膚科の臨床

- ・クリニカルカンファ、病理勉強会
- ・レジデントが非常に優秀
- Dermatopathologistの存在
- ・NYUは講師陣が充実、毎日小講義
- NYUに関連する3つの病棟:Tisch Hospital, Bellview Hospital, Veterans Hospital





研究に対する見方の変化



心がけていること

- ・症例を英文論文にすること。
- ・研究論文を書くこと。
- ・後輩の先生たちを盛り立てること。
- ・質問しやすい雰囲気をつくること。
- ・勉強会を定期的に開くこと。
- ・楽しく仕事をすること。

自分のスキルアップ

- ・診療技術の習得
- ・診断力アップ
- ・海外の論文に目を通す
- ・自分でも論文を書いてみる。
- ・研究的な内容を考えてみる。



自治医科大学皮膚科

- ・小規模な医局
- ・アットホームな雰囲気
- ・臨床を大切にしている
- ・症例が豊富
- ・地域の診療所、開業の先生との連携

キャリアアップはなぜ必要 か?

- ・長く仕事が続けられればキャリアアップは必要 ない?
- 長く仕事を続けるためには、モチベーションの 維持が必要。
- モチベーションを維持するためにもキャリア アップは必要。

余裕ができたら、周りの人の ために働いてみる

- ・後輩の教育・指導 勉強会を立ち上げてみる。 論文、学会発表の指導をする。
- たまには当直もやってみる。
- ・医局員の食事会などを企画してみる。



【一同揃って】